

【展示品】(写真では子/鼠が一番下になっています)

ほうかくきくしんきょう  
方格規矩四神鏡 (図録 131)

新(王莽)(1世紀) 径 15.9 cm 565 g

中央の方格(四角い区画)と、規矩(コンパスと定規)に見立てたTLV字形の、幾何学的な紋様の鏡です。

方格には十二支銘が時計回りに表されています。方格の外には四神(玄武(北) 青龍(東) 朱雀(南) 白虎(西))が配置されています。

方格は大地を、周囲の円は天空を表しており、当時の宇宙観を表現していると考えられています。



じゅうにしもんきょう  
十二支紋鏡 (図録 181)

隋~唐(6~7世紀) 径 23.9 cm 2,119 g

十二支(十二生肖)は、外区の二つの渦雲紋帯の間に描かれています。十二の大きな区画に、鼠、虎、兔、龍、蛇、馬、羊、牛、猿、鶏、犬、猪と時計回りに、なぜか順序を乱して記されています。

各十二支の間には、一段高く設けられた十二の小さな区画があり、中に耳の大きな側面向きの獣頭が配置されています。



からくさじゅうにしもんきょう  
パルメット唐草十二支紋鏡 (図録 197)

唐(7世紀) 径 12.2 cm 730 g

パルメットとは、ヤシを意味する palm から派生した語で、図式化した花弁または葉文が扇状に広がった模様をいいます。

内区には、宝珠をモチーフとしたパルメットと、涙滴形の区画に球形の茎または果実を取り込んだパルメットが6つずつ交互に配置されています。

十二支(十二生肖)は外区に描かれ、時計回りに疾駆しています。



え と  
干支 丑 うし/チュウ

令和3年1月16日(土)~3月14日(日)

今年は干支の1番目「甲子 こうし/きのえね」から数えて38番目の「辛丑 しんちゅう/かのとうい」の年にあたります。古代鏡展示館(兵庫県立考古博物館加西分館)では、例年冬に、所蔵する古代鏡の中から干支が描かれた鏡を展示し、その年の干支についてご紹介する「スポット展示」を開催してきました。

ところが古代鏡展示館は、ただ今、増築工事に伴い休館しています。そこで、今年は考古博物館の展示室で、干支(十二支)が描かれた鏡をご紹介することといたしました。

今回展示した3面の鏡のうち、1面は十二支を文字で、2面は十二支を動物の姿で表現しています。



パルメット唐草十二支紋鏡(図録197) 画像「丑」



十二支紋鏡(図録181) 画像「丑」



方格規矩四神鏡(図録131) 文字「丑」

古代鏡展示館は 令和3年春に  
「大きく + 新しく」なって 再開します!

新展示室オープン記念「中国王朝の粹美」

令和3年4月~9月



古代鏡展示館(兵庫県立考古博物館加西分館)  
加西市豊倉町飯森 1282-1(県立フラワーセンター内)  
電話 0790-47-2212



兵庫県立考古博物館 加西分館  
古代鏡展示館  
Hyogo Prefectural Museum of Ancient Bronze Mirrors  
加西市豊倉町飯森 1282-1(県立フラワーセンター内) 0790-47-2212

干支の順番表 (干支は60年で一巡する = 60年で暦が元に戻る = 「還暦」)

	十二支 (1巡目)												十二支 (2巡目)												十二支 (3巡目)												十二支 (4巡目)												十二支 (5巡目)																										
	子	丑	寅	卯	辰	巳	午	未	申	酉	戌	亥	子	丑	寅	卯	辰	巳	午	未	申	酉	戌	亥	子	丑	寅	卯	辰	巳	午	未	申	酉	戌	亥	子	丑	寅	卯	辰	巳	午	未	申	酉	戌	亥	子	丑	寅	卯	辰	巳	午	未	申	酉	戌	亥															
甲	1	こうし/きのえね									11	こうじゅつ/きのえいぬ											21	こうしん/きのえさる												31	こうご/きのえうま												41	こうしん/きのえたつ												51	こういん/きのえとら												
乙	2	いっちゅう/きのとうし									12	いつがい/きのとひ											22	いつゆう/きのととり												32	いつび/きのとひつじ												42	いっし/きのとみ												52	いつぼう/きのとう												
丙	3	へいいん/ひのえとら									13	へいし/ひのえね											23	へいじゅつ/ひのえいぬ												33	へいしん/ひのえさる												43	へいご/ひのえうま												53	へいしん/ひのえたつ												
丁	4	ていぼう/ひのとう									14	ていちゅう/ひのとうし											24	ていがい/ひのとひ												34	ていゆう/ひのととり												44	ていび/ひのとひつじ												54	ていし/ひのとみ												
戊	5	ぼしん/つちのえたつ									15	ぼいん/つちのえとら											25	ぼし/つちのえね												35	ぼじゅつ/つちのえいぬ												45	ぼしん/つちのえさる												55	ぼご/つちのえうま												
己	6	きし/つちのとみ									16	きぼう/つちのとう											26	きちゅう/つちのとうし												36	きがい/つちのとひ												46	きゆう/つちのととり												56	きび/つちのとひつじ												
庚	7	こうご/かのえうま									17	こうしん/かのえたつ											27	こういん/かのえとら												37	こうし/かのえね												47	こうじゅつ/かのえいぬ												57	こうしん/かのえさる												
辛	8	しんび/かのとひつじ									18	しんし/かのとみ											28	しんぼ/かのとう												38	しんちゅう/かのとうし (昭和36 令和3年)												48	しんがい/かのとひ												58	しんゆう/かのととり												
壬	9	じんしん/みずのえさる									19	じんご/みずのえうま											29	じんしん/みずのえたつ												39	じにん/みずのえとら												49	じんし/みずのえね												59	じんじゅつ/みずのえいぬ												
癸	10	きゆう/みずのととり									20	きび/みずのとひつじ											30	きし/みずのとみ												40	きぼう/みずのとう												50	きちゅう/みずのとうし												60	きがい/みずのとひ												

1 「えと」って何？

今日では「えと」=「ね、うし、とら、……いぬ、い」といった十二の動物をイメージしますが、本来の意味は違います。「えと」は漢字で「干支」と書きます。「十干十二支(じっかんじゅうにし)」を省略した言葉で、「かんし」とも読みます。

十干：甲・乙・丙・丁・戊・己・庚・辛・壬・癸 の10種

十二支：子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥 の12種

十干と十二支を順番に組み合わせていくと、60とおりの組み合わせができます。「干支の順番表」参照  
古代中国の商(殷)の時代(約3,500年前)には、この十干十二支を使って60日で一巡する暦を表していました。後に方位や年を表すようになります。干支で年を表現する方法は、日本には『日本書紀』の記載や出土品などから古墳時代(約1,500年前)頃には伝わったと考えられています。

2 「十二支」が動物に(十二生肖)

十二支の「子・丑・寅・・・」は、本来「日」や「方位」を示すもので、動物を意味するものではありませんでした。それが、遅くとも秦の時代(約2,200年前)になると、なぜか動物が割り当てられるようになり(※1)、後漢の時代(約1,900年前)には現在の動物にまとまります(※2)。

動物を割り当てたこの十二支は「十二生肖」と呼ばれます。今日私たちが「えと」とよぶものと同じものです。

※1 湖北省雲夢縣睡虎地十一号秦墓『日書』

※2 王允『論衡』物勢篇

十二支	十二支	十二生肖	十二生肖
子	し	鼠	ねずみ
丑	ちゅう	牛	うし
寅	いん	虎	とら
卯	ぼう	兔	うさぎ
辰	しん	龍	りゅう
巳	し	蛇	へび
午	ご	馬	うま
未	び	羊	ひつじ
申	しん	猿	さる
酉	ゆう	鳥	とり
戌	じゅつ	犬	いぬ
亥	がい	猪(豚)	いのしし(ぶた)

十二支と十二生肖



文字で表された十二支 (図録 131)  
方格規矩四神鏡の鏡背面の中央部分  
新(王莽) 約2,000年前

3 日本での干支

日本ではその後「陰陽五行」という考え方にに基づき、十干を陰陽(※3)と五行(※4)に当てはめました。

		五行				
		木	火	土	金	水
		き	ひ	つち	か	みず
兄	甲	丙	戊	庚	壬	
陰陽	え	きのえ	ひのえ	つちのえ	かのえ	みずのえ
弟	乙	丁	己	辛	癸	
と	きのと	ひのと	つちのと	かのと	みずのと	

※3 森羅万象は全て「陽」と「陰」の2つの状態に分けられるとする考え方  
※4 この世の事柄は5つの要素の変化により生じるとする考え方  
例えば、十干の「甲」は五行では「木」、陰陽では「陽」=兄となるため「木」の「兄」=「き」の「え」=「きのえ」となります。「辛」は「金」の「弟」=「かのと」です。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
漢字	子	丑	寅	卯	辰	巳	午	未	申	酉	戌	亥
音読み	し	ちゅう	いん	ぼう	しん	し	ご	び	しん	ゆう	じゅつ	がい
訓読み	ね	うし	とら	う	たつ	み	うま	ひつじ	さる	とり	いぬ	い

十二支の「音読み」と「訓読み」

干支の例/令和3年の場合

十干 辛 + 十二支 丑 = 干支 辛丑  
(音読み) しん + ちゅう = しんちゅう  
(訓読み) かのと + うし = かのとうし

【干支で呼ばれる著名なできごと】

庚午年籍(こうごのねんじやく/670年)  
天智天皇9年(670)庚午(かのえうま)の年に作られた、全国的規模のものとしては最古の戸籍

壬申の乱(じんしんのらん/672年)  
天智天皇の死後、その子大友皇子と弟大海人皇子の皇位継承を巡る内乱

壬辰倭乱(じんしんわらん/朝鮮/1592年)  
豊臣秀吉が明の征服を目的に朝鮮に出兵した侵略戦争。日本では「文禄の役」といいます

戊辰戦争(ぼしんせんそう/1868年)  
幕末~明治初の倒幕派と旧幕府軍による戦争。鳥羽伏見の戦い~五稜郭の戦いまで

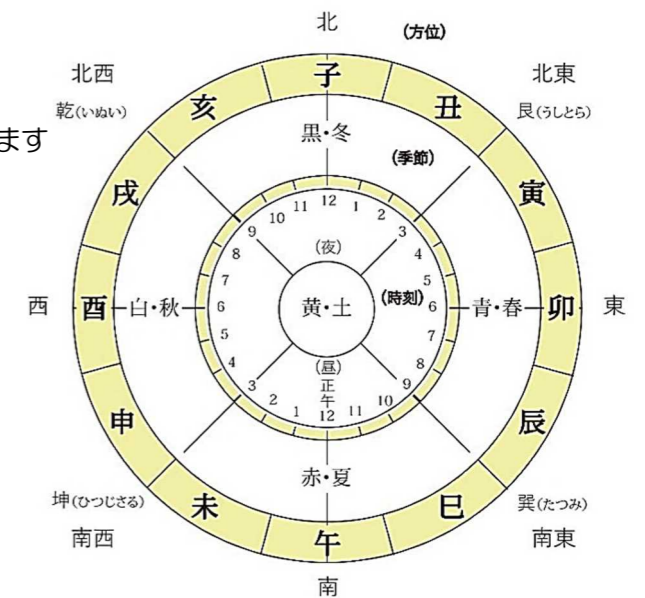
阪神甲子園球場開園(こうしえんきゆうじょう/1924年)  
大正13年が甲子の年であったことから名付けられました

【今でも使っている十二支の表現】

【方位】子午線(しごせん)  
地図の南北線(経線)のことで、東経135°の経線は明石天文科学館を通過しています

【時刻】正午・午前・午後(しょうご・ごぜん・ごご)  
午の刻(11時~13時)の真中(12時)を正午、その前後を午前、午後といいます

【時刻】草木も眠る 丑三つ時(うしみつとき)  
丑の刻(午前1時~3時)を4分割した3番目の時間。現代では午前2時~2時30分をさします



十二支で表わした方位や時刻